



Peace Through Service

尾張旭ロータリークラブ

Weekly

「例会は親睦なり、深めよう親睦！」

・会長 井田 武憲
 ・幹事 桜井 雅博
 ・会報 占橋 裕志
 ・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail: owariasahi@mtc.ki-goh.ne.jp
 URL: http://www.owariasahi-rc.jp/

ふれあい、思いやり、そして握手

本日 第2050回 2013年3月22日(金) No. 1940

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「日の風も星も」

卓話者:木村 玄次郎 君

演 題:「旭労災病院の現状と将来」

前 回 第2049回 2013年3月15日(金) 記 録

- 齊 唱:「我等の生業」
- ゲスト: 愛知県立大学非常勤講師・名古屋造形大学非常勤講師
 NPO法人やきもの文化と芸術振興協会理事長 浅田 員由様
 NPO法人やきもの文化と芸術振興協会事務局長 谷 秀太郎様
- 出席者: 会員28名中17名出席 出席率60.71%
 前々回補正出席率は3月1日分92.86%

当幼稚園の本年の卒園児は106名とのことでした。当日のスケジュールは、10時開式、園児たちの入場するその表情は真剣そのものでした。まず「君が代」の斉唱でしたが独特なアクセントで歌い驚きでした。



修了証書の授与も終わり、ややくつろいだ表情に戻りあんどな場が漂いました。そして、皆勤賞の授与では、16名の園児が3年間無欠席の偉業を達成したとして表彰されました。

「卒園の歌」に入り、担任の先生が涙ぐむのを目のあたりにして、感極まった園児もすすり泣きになり、この情景には、さすが小生も涙腺が緩みました。普段泣くといえ、しかられた時とか、けんかや気に入くない場面だと思っただけでしたが、このふんい気で涙が出てくるということはすごいことだと思いつつ、日頃の先生方の熱心な指導のたまものあらわれだと感じ、子どもたちの純粋な姿に接し深い感銘を受けました。

最後に、担任の先生に先導されて退場していくりりしい姿に保護者の方々からの惜しみない



△左から浅田員由様、谷秀太郎様、仲澤会員

会長あいさつ 井田 武憲

3月14日(木) 本地ヶ原校区内にある幼稚園の第38回卒園式に来賓として出席しました。

----- 識字率向上・OFDY月間 -----

	3月29日(金)	4月 5日(金)	4月12日(金)	4月21日(日)
例 会 予 定	卓話担当者: 箕輪良孝 財務委員長	卓話担当者: 会員増強委員会 卓話者: 西尾輝久 会員増強副委員長	卓話者: 飯田 幸雄君 演 題: 「ロータリー あれこれ」	19日(金) 振替 春の家族会 高山方面
	卓話者: 伊豆原職業・福岡 社会奉仕・古橋マツ子新世代 奉仕・飯田国際奉仕委員長 演 題: 「中間報告」	演 題: 「会員増強に ついて」		
3分間 スピーチ	小柳 和之君	飯田 幸雄	加藤 勇夫	—

拍手を受け、約1時間の式でしたがトラブルもなく、私自身何ともいえない快感を覚えつつ園を後にしました。

幹事報告

- ・3/8 第4回OFDY委員会 於商工会館 大野委員長以下6名出席。
- ・3/14 地区ロータリー財団委員会 於ガバナース事務所分室 加藤清久グローバル委員出席。
- ・例会変更のお知らせ：別紙。

ニコボックス

○やきもの文化と芸術振興協会理事長 浅田員由様、同事務局長 谷秀太郎様、本日よろしくお願ひ致します。 井田 武憲君

○浅田様、谷様、ご多忙の中、ありがとうございます。おはなし楽しみにしています。

仲澤 昌容君

○本日、ゲストに浅田員由様と谷秀太郎様をお迎えして。歓迎致します。 山田 直樹君

○やきもの文化と芸術振興協会理事長 浅田様、事務局長 谷様ようこそお出でくださいました。

唐井 仁一君

○浅田員由様、谷秀太郎様のご来訪を歓迎いたします。 森井 晴生君

○浅田先生をお迎えして、卓話楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひします。

加藤 清久君

○連日、卒業式のため肩がこってしまいました。

古橋エツ子君

○今年も河津桜、テーブルにも春が。

古橋 裕志君

○河津桜、静岡の営業時代を思い出し、なつかしい気持ちで一杯になりました。河津の「そば」が美味しかったです。

加藤 清久君

○お忙しの君

高島 昇君

卓話

「せとものとは何か」

浅田 員由

瀬戸窯からせとものへ



瀬戸は、中世に施釉陶器を生産したわが国唯一の窯である。猿投窯の施釉技術を継承して11世紀末に、中国宋

の白磁を模倣した灰釉陶器の生産を始める。

当初は四耳壺や瓶子等の経筒外容器や骨壺に使用されるものが焼かれたが、鎌倉時代に入ると、様々な中国陶磁器を写すようになり、高級陶器として全国に供給された。また、鎌倉から室町時代にかけては、茶の湯の普及と共に、天

目茶碗や茶入、花瓶などの茶道具類が大量に生産されるようになった。この頃には、鉄釉も始まり、文様も豊富に施されるようになり、瀬戸は日本で最も著名な窯業地となった。

戦国時代の末期に一時衰退するが、江戸時代に再び盛んになり、わが国最大の窯業地となり、その製品は、「せともの」として名を知らされるようになったのである。

猿投窯の灰釉技術を受け継ぐ瀬戸窯は、本来中国陶磁器を国産化する陶器の生産地であり、ある意味高級陶器を生産する窯であった。しかし、江戸時代に京焼や有田焼等の新たな高級陶器が焼かれるようになると、瀬戸陶器は日常活用品として大量生産され、全国に販路を広げていった。このことから、陶磁器の代名詞として、「せともの」が使われるようになった。

陶器から磁器へ

江戸時代中期までは、有田磁器器はほとんどが輸出されたため、瀬戸の陶器は国内需要を賄うものとして、有田と瀬戸の住み分けができていたのである。しかし、18世紀中頃から有田磁器が国内の販売を強化してくると、国内市場で瀬戸の陶器と有田の磁器が競合し、瀬戸は次第に衰退していった。これを盛り返すため、19世紀初頭瀬戸でも染付磁器の生産を開始するのである。

明治時代以降、瀬戸の磁器生産は有田を凌駕し、再びわが国最大の窯業地となった。しかし、安価な大衆品を大量生産する瀬戸の陶器は、「せともの」のイメージを「安物」として植えつけてしまった。このため、瀬戸の「せともの」清水焼や伊万里焼、九谷焼のような高級品として記憶されないやきものとなってしまったのである。

ロータリーの基本知識

日本で最初のロータリークラブは、1920(大正9)年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟承認されました。日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退しましたが、戦時中も水曜会、木曜会などのように名前を変えて活動を続けました。

戦後1949年3月に復帰加盟。その後の日本のロータリーの拡大発展には目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。日本は、現在34地区に分かれており、そのうちの1地区(第2750地区)には、北マリアナ諸島、グアム、ミクロネシア、パラオという海外の地域が含まれています。日本国内のクラブ数は2,292、会員数8万9,228人(2012年5月末現在)。日本のロータリアンたちは、地域社会で、そして世界の各地で、さまざまな活動をしています。 —ロータリージャパンより—